

国際教育文化交流協会 挨拶文

五月女光弘 外務省参与・NGO担当大使

<元特命全権大使（駐ザンビア共和国・駐マラウイ共和国）、元オークランド総領事>

表題案：「国際舞台で活躍を目指す君たちへ」「国際社会で期待される若者は」
「若き力を世界のために」

なぜ国際理解・国際交流は必要なのか、なぜ国際貢献はすべきなのでしょう。

世界の歴史を振り返れば、自分一国の力だけで豊かになれた国、平和になれた国は一つもないのです。どんな国でもどんな人でも国際社会の中で理解され助けられなかったら生きていくことは出来ないのです。日本も例外ではなく、特に第2次大戦後の厳しい苦難の時期には、国際社会の多くの人々から支援され発展することが出来たのでした。そして日本はその国際社会にしっかりと恩返しをしてきた国なのです。その厳しく困難な時期に、当時の豊かであった国々から招聘を受けた多数の日本の留学生が外国で学び、日本の発展のために貢献したのでした。

自国の文化・伝統・言葉を愛し、他国の文化や言葉を、敬意をもって学ぶことは、大いに国際理解・国際貢献に寄与します。世界は相互理解・相互扶助で成り立っています。

以前こんな調査が、日本や他の国々で行なわれました。“ある国に好意を抱いているか、いないか。そのような質問に対して、一般人からの回答では、その国に好意的でないとの回答の方が多かったけれども、その国に留学し言葉を学んだ人、その国をビジネスや観光で訪問した経験のある人からの回答は、圧倒的にその国が好きだと云うものでした。「食わず嫌い」ならぬ「行かず嫌い」であったのです。

日本人も、諸国の人々も同じ星に棲む「地球人」です。残念ながら地球人の70%の人々は字が読めません、書けません。大学教育を受けた経験者は1%しかいません。識字力を上げ、教育と技術の力を強くすることで各国が自立し豊かになり、紛争や飢餓もない平和で安心して生活できる世界を構築できるのです。それをリード出来るのはこれから社会を担う国際感覚をもった若者たちです。是非とも「相互理解・相互扶助」の社会作りに貢献してください。期待しています。(了)